

# 市仏連会報

発行所

横浜市中区大平町96

光明山西有寺内

横浜市仏教連合会

電話 045(661)0166

## 平成三年度総会開く

平成三年度市仏連第十八回総会は五月二十三日午後二時から中区大平町西有寺において開催されました。総会次第の順に従って先ず開会の言葉を市仏連副会長長滝川覚道師よりいただき、続いて市仏連会長森山正城師より挨拶をいただきました。その中で会長は昨年より一年間会員諸師の暖いご協力をいただいで無事職をまっとうすることが出来ましたとの感謝と御礼の言葉と、又今日の総会には役員改選予算案の審議等重要案件がありますのでよろしくご協議していただきたいとの挨拶がございました。

引き続き議長の出入りに本部一任ということで中区仏教会会長の東福院住職上柳毅明師が選出され議長席につかれ議案に入りました。

第一号議案の平成二年度事業報告について川上敬吾専務理事が説明をし、第二号議案の平成二年度決算報告について橋下賢明会計より説明があり、第三号議案の会計監査報告が内野公雄監事により発表されました。第四号議案で以上三議案の質疑応答に入り全て異議なく拍手で承認されました。続いて第五号議案平成三年度事業計画案の説明が専務理事よりなされ、第六号議案平成三年度予算案の説明が会計よりなされましたが、この中で過去平成二年度までの収支内容について特に総収入に対する会費の占める割合が約三分の一だ

けしかなく、のこりの三分の二は特志などにたよっている状態なのでこれを改善して収入のバランスをはかっていくために会費の値上げを提案しこれを組み込んだ予算案を作成したとの説明がありました。第七号議案で以上二議案について質疑応答の結果両議案とも原案通り承認可決されました。これにより年会費は平成三年度より金千円改定し年額二千円から三千円になりました。第八号議案の役員改選の件について選考委員長長南港南区仏会長片山宣英師より選考の経過並びに結果の発表がなされました。この中で選考委員会を去る二月六日南区常清寺に於て開催し審議の結果現会長森山正城師はまだ就任わずか一年目でもあり適任者でもあるので引き続き会長職をお願いしようということに委員会として意見がまとまりましたので、森



山師の意向をつたえましたところご理解をいただき承諾を得ることが出来ましたこと、又副会長二名につきましても就任一期目でもあるので是非留任していただきたくこのむね滝川覚道師並に玄野孝善師にお願い致し承諾を得ることが出来ましたので、選考委員会として以上三名を選考いたしましたのでここに委員会の経過をふまえて会長に森山正城師、副会長に滝川覚道師、並に玄野孝善師を推薦いたしますとの提案があり議長が当案件の是非を求め全員拍手をもって提案通り承認されました。第九号議案市仏連主催仏跡参拝旅行の件について本年は片山宣英師のご盡力により身延山久遠寺へ参拝することとなり、日帰りバス旅行ですが定員に余裕がありますのでふるって参加して下さいとの要請がなされました。議案十で森山会長の挨拶をいただきました。この中これから二年間会員各位の御協力のもとに会を一層発展させるべく頑張りたいとの力強い決意を述べられました。これを以って議案審議はとどこおりにく終了し引続いて来賓祝辞を県仏会長福永隆昌師より賜り、閉会の言葉を滝川副会長が述べ第十八回総会は無事終了することが出来ました。この後「久保山斎場改築事業について」と題して横浜市衛生局より菊地努氏他二名を講師に招いて斎場の件その他につき説明を受けました。終了後懇親会を開催いたし、午後五時半に無事了り散会いたしました。

### 秋の仏跡参拝旅行

臨済宗名刹参拝と木曾路の旅  
期日 平成三年十一月十四日(木)  
十六日(土) 二泊三日

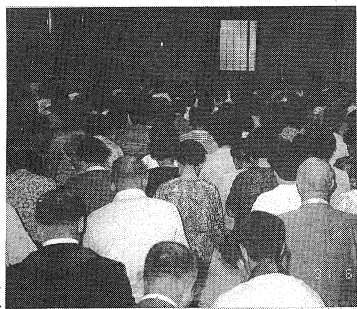
会費 五万八千円也。申込締切は十月十五日。詳細は東照寺(電話〇四五―五三一―七八三)へ。  
参加者募集にご協力下さい。

### 第十七回釈尊涅槃会 開催予定

当番区仏は金沢区仏教会である。  
一、時 平成三年二月初旬頃  
一、処 金沢区仏教会会処寺院  
詳細については後日、御案内を致します。

### 県慰霊堂奉仕当番表

- 3. 10. 磯子区仏教会
- 3. 11. 港北区仏教会
- 4. 2. 5. 金沢区仏教会
- 4. 4. 6. 中区仏教会(五日休日の為)
- 4. 6. 5. 保土ヶ谷旭区仏教会
- 4. 10. 5. 鶴見区仏教会
- 4. 11. 5. 戸塚区仏教会



身延山堂内で勤行の二五〇名一行

# 御 挨拶

横浜市仏教連合会

会長 森山正城

夏が暑いということとはきまっています。本日に暑い日が続いておられます。

七月・八月は、お盆で皆様もお疲れの事と思います。市内では、約八〇パーセントが七月盆、あとが八月盆と云う土地柄です。私も、お盆、施餓鬼会共にすみましたが八月のお施餓鬼出頭と、本山の開山忌出頭等が残っています。

先般六月十一日の、市仏連仏跡参拝バス旅行には、多勢の檀信徒の方々にご参加を頂き盛大なバス旅行が出来ました事は偏に皆様のお陰と、厚く御礼申し上げます。

天候にも恵れ、横浜の混雑をのがれ、富士川にそってのどかなバス旅行が出来ました事、また特に久保山の常清寺様には、こまごまとお世話になり、大変感謝致して



おられます。

昔、身延山で仏教徒大会が開かれた事がありますが、その時階段を登った記憶がありましたので、その覚悟でまいりました所、今は自動車道が出来、バスに乗ったまま、頂上まで行くことが出来ました。海まで一望出来る素晴らしい眺めです。

御法話を聞き、諸堂を案内して頂き再度身延からの眺めを惜しみながら帰路につきました。帰りのバスの中では、それぞれ賑やかだったようで、話に夢中のうちバスは横浜駅前に到着し、解散致しました。多勢の方々のご参加、本当に有難うございました。次回十一月には奉讃会で豊川稲荷妙厳寺、伊深の正眼寺、虎溪山の永保寺等が計画されています。私も是非参加させて頂きたいと思っています。

さて話は変わりますが、墓地問題で長い間ご苦労下さいました西区の元仏教会長、田満寺住職の西郊良光師が宗門及び大正大学等の都合によってお忙しく退任されました。後任会長に西区洪福寺住職の奈良光雄師が就かれました。いろいろと研修を共にしていきたいと思えます。例えば墓地使用領収証の書き方、墓石等の損傷、墓地内での怪人への処置、対策などの諸問題があり、当会顧問弁護士もまじえて研究しなければと思っ

ております。皆様の中で何かお考えがありましたら、是非ご教示下さい。

また昨年行われました市仏連発足四十周年と釈尊奉讃会創立十周年の記念大会も盛大に且つ、厳粛に円成できましたことは、皆様のご協力があったればこそと深く感謝致しております。つきましては、大変遅くなりましたが決算報告を別記させて頂きます。残金については後日、理事会において検討をお願い致すつもりです。

今日は理事会も思うように行うことができません。役員会だけで済ましてしまいました。雲仙岳の噴火による災害地救済問題など、多くの社会問題もかかえております。私の所も昭和三十三年に台風によって崖崩れがあり庫裡が全壊した事があり。自然の力というものは大変恐ろしいもので、皆様も何らかの見舞をなされたと思います。

市仏連も先般の役員会で、案を考えてありますので後日、理事会で検討して頂きたいと思えます。それにしても災害地は、一刻も早く噴火がおさまり、復旧しますよう念願する次第です。

最後にまた下手な山水画をのせました。私は病気の後、なかなか思うように書けなくなっていました。健康な内にこれと思つて書かなくては如何ですか。いつまでも丈夫とは限りません。私もまた山水画をかけるよう日々努めております。昔から日々是好日と云う言葉があるように頑張りたいものです。

## 久保山斎場改築される



横浜市衛生局の施設整備担当課長の菊地努氏、田中氏、田村氏の説明を聞き、質疑応答をした。

昭和二年に建設され、既に六〇年以上を経過し、老朽化が著しい久保山斎場については、近代的で最新の公害防止設備を備えた施設にする。この改築は、平成三年九月の南部斎場の開設にあわせて工事に着手し、平成七年度に完成の予定である。また改築期間中は周辺住民の45%に対応、御利用いただけるよう火葬炉二基を別途設置する。新概要。炉数二基。本館棟地下一階地上三階建、高一五m位、市営ではじめてのエスカレーターを設置。前比六倍強の広さの建物となる。告別収骨兼用室六室。休憩室一〇室。一室収容平均は四名。和室四部屋、洋室六部屋。大室には八〇名、小室には一二名がはいれる。駐車場棟は地上二階建三層(屋上も駐車場)。マイクロバス二二台、乗用車六八七台の合計八〇台。二棟合計延床面積七九二二㎡。排気筒三〇m、黒煙、臭気も出る。敷地は現況より拡大

は困難なので、一炉増にとどめた。燃料は重油から都市ガスに替える。クリーンなエネルギーで、現在ロストル方式を台車式に替えると燃焼率低下(約一時間十五分)となるが、遺骨はバラバラの形にならず、イオウ酸化物も出ず、公害防止上有利となる。総工費約一〇八億円を見積る。地元やグループへの説明会を二〇回ほど持つた。主な意見は駐車台数を増やせ。炉数も一基増では改築しても利用効果が期待できない。渡り廊下を屋根つけ風除けにすべきだ。

三三ヶ月工事は期間が長い。下水管の入れ替え、周辺と共同下水接続、久保山墓地が下にあるので連続地中要壁工事、資材置場が無い。地元業者との関係で悪影響を与えない。いろいろと考慮し計画をした。金沢区南部斎場は一〇炉、西部戸塚斎場、東部民宮西寺尾斎場中心部久保山斎場一部(二基)灯稼働で一日に三体を取り扱える。北部は緑区方面であるが、必要か否かで委員会を設けた。

平成三年二月十一日(月・友引)は晴天で暖かな一日であった。今回は栄区仏教会(十四ヶ寺)が当番で浄土宗大誓寺本堂において法要、各師挨拶、法話等を営んだ。午後一時半、川上専務理事の司会進行で始められた。二五〇名の参加があった。

演題「おねはんに想う」講師 浄土宗神奈川教区教化団長の成田光俊上人の法話、約四十五分。以下要旨を記す。

心安けき救済者は今生きる息も無し、今出づる息も無し、欲無き者は寂靜に至り、覚者は滅し給ふ。揺ぎなき心を持ち能く苦痛に耐えたもう。灯の消える如く心の解脱を遂げたもう。お釈迦さまの亡くなられた時の態度です。

十七年位前インドへ仏跡詣でに行きました。クシナガラの旅館に泊った。夕食の時、停電になる。外がきれいですよとの声で出る。満天の星、カマボコ型の涅槃堂を訪ねた。金色の涅槃像がこうこうして知らずのうちに地に伏し礼拝をした。

お釈迦様は長い何百キロの旅路をして最後の旅は生れ故郷のルン



ビニへ向うてい

生れた処が本當の故郷なのか、本當の故郷とはいったい何処なのか。闇の夜にきかぬカラスの声聞けばまだ見ぬ先の里と思うぞよ。あなたがこれから行く先、あの世のことである。人は皆死ぬというところ。誰一人としてオレは死なないという人はいない。自分の死ぬのはまだまだ先だと思っているにすぎない。肉親などまさかと思う人が亡くなってなげかれたこともあるでしょう。ある人は七〇歳であつた。風呂を出てお次の方どうぞと部屋に入り就寝、翌朝起床せず冷たくなつていた。良い往生をされたと世間では云う。

### 第十六回釈尊涅槃会厳修(於 栄区 大誓寺会場)

おねはんの時に私たちは、必ず亡くなるというのを第一番にわが腹の中にしつかりと入れることが大事。花嫁に散ることを聞かす涅槃かな。仏やわれをどのようにさせたまうか。今何をなすべきかを考えるのが涅槃会の大目的。いかに生きるか、生かされていただくか、真実生きてゆくかを考えてゆくかが涅槃会の意義。ただ単にこの世に生きてるだけで本當の生きてる姿とはいえない。お釈迦様が常に接しられた姿を目の前に思い浮かべる。四〇年間の説法で私にまかせるとは言っていない。私にまかせれば、あなたは絶対に救われ、幸福になるといふ言葉を用いていない。「来なさいよ。来なさいよ。」我胸の中に

よう来たねと常に親しく接しられた。皆様方のご家庭でも充分にお使いになれる大切な言葉である。友だちに、俺の家へ来いよというのと来てみないでは、相手に正反對の印象を与える。犬でも来ないかと手を出すとする。逆に来いと握り拳を出したら、吠えて来ない。「よう来たね」の接待を学ぶべきだ。おこつて鏡を見たら怒つた顔が鏡の中にある。笑つて鏡をみたら鏡の中に笑つた顔がある。県仏会長さんが心を鏡に写していますかと云われた。笑顔で接してゆけば相手の心の中に笑顔がうつってくるのである。そのように接しられたお釈迦様は喜びあふれる心を

持っていた。嫌な者がまたきたと思つと喜びあふれる言葉がでない。またお釈迦様は常に自分から話しかけてゆかれた。向うがいうまでも何と言わぬ態度を取らなかつた。接しさせていだきたいと思つと自然にでてるのが合掌である。自分だけで生きていけるのではない。多くの人々、自然のおかげで生かされていると感得すると誰にでも合掌で挨拶をする姿になる。オレがおねはんの我(が)を捨てて、お陰お陰のゲで住む、ありがとの日暮しこそ、まさに合掌の姿である。夫が会社から帰宅するともう帰つて来たのと妻がいう。これでは夫がかわいそう。お帰りなさいの言葉で疲れもとれる。出された食事をよくこんないいもの



を作つてくれてありがと、どうして言えないのか。私共夫婦の二七年间は辛くてもからいといわない。明日食べさせて貰えないから我慢しているのではない。先方が気が付く。ちよつと辛かつた。そうだね。和のある家庭を社会へ広げる。お互いの心を喜びあえる。しつとりと喜びを感じる。これがお釈迦様のお悟しの姿である。釈尊の最後の言葉「さあ修行僧に告げよう。怠ることなく修行を完成しなさい。」人格を完成しなさいということだと信じる。罪つくりの私達にとつて何が人格完成にむけてできるだろうかと考えてみたら、「さあ来なさい、よう来たね」と釈尊が親しみのある接しかたをされた。また喜びの声を持つて応対された姿は私達にもできる。反対に人から嫌味をいわれるといらだつ。犬がほえたら吠えられておけ。他人にとどなられたら怒られておけ。何も一緒になつて吠えることはない。皆様できますか。できない。そうです出来ないから人間なのである。怠ることなく修行せよ。そのように心がけることは私にもできる。必ず死ぬ。その死



に臨んで自分がどれだけ努力できたか。お釈迦様の人格にどれだけ近づけたかと思うべし。檀家の某おばあさんの場合。その方は嫁につらく當つた。嫁さんはじつと耐えた。嫁さんの留守の時には、近所へ嫁の悪口をいいふらして歩く。おばあさんが寝こんだ時に私が行くくと、「和尚さんよ。ずうつと嫁の悪口をいってきただけ今は反省した。私にもできることがあるだろうか」。和尚「体が不自由でも口と耳が達者じゃないか」。その問答の後、嫁を外に出し、自分は留守番に徹する。短かい期間だつた。そのおばあさんの通夜で「あのおばあちゃんはいい人だつたね」と皆がいう。数ヶ月前に死んだらあんないい悪人はいなかつたと言われていたにちがいない。何かの機会に怠ることなく、心の葛藤をするたびに自分の死ぬのが近づいていると胸の中に刻んで下さい。どれほど近づいたかをわかるような皆さんになつてほしい。今日を限りに、日々怠ることなく、お過し下さい。ご静聴ありがとうございます。

午後三時半閉会。川上師の御礼のことばがあり、供物を配る。

横浜市市仏教連合会平成2年度収支計算書

取入 支出 入金 引金 日 期 2,188,081 1,917,140 2,023,341 2,023,341 (平成2年4月1日 至 平成3年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減. Rows include ①会費収入, 1. 会費, ②雑入金, ③前年度収入金, ④前年度繰越金, and 収入合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減. Rows include ①総務費, 1. 事務所費, ②庶務費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費, and 合計.

次年度繰越金 239,341 円 平成3年4月14日

上記の通り収支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 森山正城 (印)

会計 橋下賢明 (印)

監査の結果相違有り可と認め可

監査 内野 公 彦 (印)

横浜市市仏教連合会平成3年度歳入歳出予算書

歳入 支出 入金 引金 日 期 2,023,341 2,023,341 (平成3年4月1日 至 平成4年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include ①会費収入, 1. 会費, ②雑入金, ③前年度収入金, ④前年度繰越金, and 合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include ①総務費, 1. 事務所費, ②庶務費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費, and 合計.

上記の通り歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 森山正城 (印)

監査 野村 隆 幸 (印)



第八回春の仏跡参拝旅行は平成三年六月十一日(火)に実施された。今回は山梨県の日蓮宗総本山身延山久遠寺への参拝、法話聴聞の旅であった。参加者約二五〇名はバス五台に分乗し、東名高速の海老名サービスエリアで合流、朝八時半頃。そして富士インターチェンジで国道1号、芝川で国道52号線を走行する。右手に富士川の流れの中で解禁になった鮎釣りの太公望達の姿や沿道に咲くツツジの花を眺めながらバスに揺られて午前十一時十五分身延町に到着した。真夏日と気象庁が云ったとおり暑い日射しに照りつけられた一日であった。まず昼食を摂り門前町の軒をかすめて大型バスで惣門をくぐり三門、二八七段の菩提梯(ぼだいいてい)下を横切って、千本杉の林立する境内最奥の駐車場

で下車。身延山「ブウェイ」駅下の坂道を歩いて登り、本堂前に出た。昭和六十年入仏落慶の真新しい大本堂(間口十七間半、奥行二十八間)を背景にバス毎に記念写真を撮る。祖師堂と葉桜となった樹合四〇〇年の巨木の枝垂桜(しだれざくら)、大鐘、御真骨堂、仏殿、開基堂、釈迦殿納牌堂、信徒憩所の諸堂に囲まれた境内の砂利を敷き詰めた広場を歩き、法喜堂の総受付玄関から客殿に入る。喜堂の御影という日蓮聖人の大画像を床の間に掛けまつる大広間で般若心経一巻を全員で読誦し法案をささげた。川上敬吾市仏連専務

### 緑深い

## 身延山久遠寺へ参拝

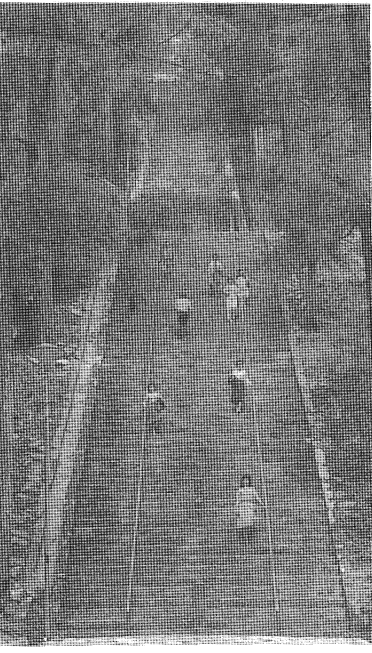
理事が司会し、森山正城市仏連会長と程木徳明釈尊奉誦会担当の各師が挨拶を申された。  
午後一時より約三〇分間、身延山布教部の御上人より、身延山縁起や日蓮聖人と日蓮宗についての法話をいただいた。  
身延山久遠寺(みのぶざんくおんじ)は、鎌倉時代に日蓮聖人によって開かれた寺で、日蓮宗の総本山である。「いづくに死に候とも墓をば身延の沢にせさせ候べく候」という遺言で聖人の廟墓(びょうぼ)を安んずる霊境である。つまりどこで亡くなっても墓を身延に建てれば魂しいは身延山に棲むとの仰せである。また「日蓮が

弟子檀那等はこの山を本として参るべし」とのお言葉で門下無二の帰依処となっている。晩年の九年間はこの波木井郷の身延山麓の平らな西谷に三間四面の粗末な草庵を立て、下山することなく法華経の読誦と門弟教育に専念した。鎌倉幕府を三度いさめて聞きいられず、大信者の波木井郷地頭の南部実長(なぶさねなが)の領地の当地に迎えられ、文明十一年(一二七四)五月十七日に入山する。今から七二〇年余り前七百年の寺歴伝灯がある。日蓮聖人は弘安五年(一二八二)の九月八日、病身を養うためと両親の墓参のため

に下山され、堂陸国へ向う途中の武蔵国池上で六十一歳の生涯をおえた。当今は没後七一〇年である。入山八ヶ年で十間四面の堂を建て、手紙三百通を執筆された。(一生涯に書いた手紙の総数は五百通)。日蓮聖人は安房小湊で貞応元年(一二二二)に誕生されてから十二歳で清澄山に登り十六歳で出家得度、虚空蔵菩薩に日本第一の智者とさせて下さいと祈誓した。恩になつている人々を助けるために僧侶になる。四恩とは親、師、一切の人々、久本仏(神仏)である。報恩の思いで生涯を過ごされた。立正安国とは汝一身の平安と安堵を得ようとするとするならば、すべから

四方の静謐を願へ。大きなしあわせの中に個人の幸福をいただく、ということである。天下万民すべてが「南無妙法蓮華経」と唱えることによって、世界は衰えも知らぬ浄土となることを証言した。身延山こそは末法における法華経信仰の中心であり、それは釈尊が法華経を説いたインドの靈鷲山がこの日本に現出した処で日蓮一門にとってはまさにこの世の靈山浄土とも思えるのである。十一代座主行学院日朝上人の代に中谷(現在地)へ堂宇を移した。久遠寺の裏山の頂上は海拔一二四七mの高さで、故郷の両親を祖師が追慕され、思親閣が建つ。明治八年の大火災に山内全堂宇を類焼した。現在再建され、二百名が在、毎朝六時法主上人導師のもと勤行を修する。以上の法話の後、客殿水鳴楼の前庭の山水と咲くショウブとツツジの花の景観を見、御真骨堂にお参り、棲神閣の御影(木像)を拝し、本堂を拝観する。見事の一言でも尽くすことのできない立派さである。渡り廊下を題目唱和の引

導僧と共に歩む信者の行列が何組も行き交う。日蓮聖人の靈性に触れるというのが身延山参詣の第一の目的なのである。我ら一行も身心の健康を祈念して法華経祖山を辞した。四時十五分に清水港海山物店へ立ち寄る。六時十五分、海老名サービスエリアで会長と専務理事が五台のバスへ出向き、御礼と散会の挨拶をされ、無事で心豊かな一日を土産に帰路についた。  
一号車・松陰寺二九名、福聚寺三名、正観寺四名、新善光寺三名、天然寺四名、洪福寺一名、観音寺一名の計四五名。二号車・長昌寺一名、金竜院八名、宝珠院三名、海照寺一名、慈音寺三名、保福寺、四名の計四五名。三号車・東照寺、二〇名、福聚院七名、福泉寺二名の計四八名。寿号車・徳善寺三名、善昌寺三名、妙光寺一名、宝蔵寺九名、西福寺二名、長天寺八名の計四五名。五号車・大誓寺四七名。二四ヶ寺、二三〇名の多数の参加を得た。御協力、御尽力に感謝と御礼を申し上げます。皆様ありがとうございました。



聖人

# 支部だより

## 栄区仏教会

当区仏寺院紹介シリーズは定泉寺の巻です。渡辺宜昭住職の執筆です。真言宗大覚寺派定泉寺。

当山は田谷山亀見院定泉寺と称し、天文元年鶴ヶ岡八幡宮寺の供僧坊相承院から出られた隆継和尚により開山、当所鎮守御霊社の別当も兼ねました。江戸時代に三会時(港北区)の末となり、戦後に大覚寺派に転じました。本尊は阿弥陀如来、不動明王、弘法大師の三尊で、中尊の阿弥陀如来は銅造善光寺式鎌倉時代末期、不動明王と弘法大師は共に江戸時代の造立であります。三尊は小ぶりながら量感豊かに生氣漲り、まことに有難く拝されます。境内北側の丘陵の内

部には俗にいう「田谷の洞窟」、正しくは「田谷山瑜伽洞」があります。鎌倉時代から江戸時代にかけて適時拡大された上下三段、延長一軒近い規模の窟院であります。この御洞の山全体が大日如来、御洞はその胎内、そこに彫刻された一願弘法大師、金剛界胎藏両部種子曼荼羅、十八羅漢、四国、西国秩父、坂東の各札所本尊等三百余尊すべてを大日如来の変現と観じます。即ち当「田谷山瑜伽洞」は真言密教の教義と民俗信仰を併せた立対的別尊曼荼羅と解されます。地質は粘板岩の巨大な一枚岩で、幾度かの大地震にも強く耐えております。また通風、排水、貯水等

を考慮した合理的な構造からは、相像以上に秀れていた往時の土木技術の一端がうかがわれます。現今の世、洞内に満ちる寂靜の気が一層、身にしみてまいります。

横浜市栄区田谷町一五〇一。交通神奈中バス・戸塚バスセンターより大船駅行、大船駅観音側より戸塚バスセンター行、洞窟前下車。

## 戸塚区仏教会

「戸塚の寺院誌」の発刊

戸塚の世相も時代とともに、大きく変様して行きます。

そんな昨今、戸塚の寺院紹介がいくつかが刊行されています。しかし、それらは第三者が既刊の資料で書き、しかも、その内容も江戸時代までのものが多いようです。それぞれの寺院には寺歴があり寺伝があり、伝承されている秘話もあるはずで。

また、寺院は明治・大正・昭和の時代を経て、今日まで法灯を継承しています。なかでも戦後から寺院の内容・形態は大きく変容しました。そんな世相を見きわめる「現代の姿」。そして諸行無常をふまえての「将来の展望」など、過去・現代・将来の紹介を該当寺院住職方が書きました。これらの寄稿をもとに集大成した「戸塚の寺院誌」だけに意義があります。

題字は清源院 永原文雄師  
仏画は北天院 桜井一溪師

の御厚意によるものです。

寄稿の時期が盆月から、秋彼岸の法務多忙中にもかかわらず、御協力下さいましたこと、また寄稿

寺院の負担金によって発刊できましたことを感謝しております。

「戸塚区仏教会 会則」が平成元年六月十日の総会で承認されたから「区仏」活動の一方法として「戸塚の寺院誌」の刊行となりました。

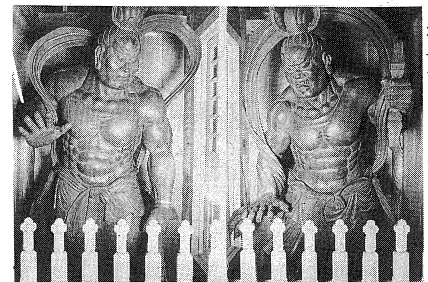
好意的な期待がされて、始めの予定数より申込みが多くて、参千部の発刊となり、「布教本」として広く活用されています。

## 瀬谷区仏教会

一、八福神も市民の間に広々知られ参拝される善男女も多い。利用者の立場から案内図や解説を再考し、新しい編集を始めた。新年には間に合うよう作製したいと一同協力して発行に努めており、また八福草の育成保護も心がけている。

二、去る六月十一日の市仏主催の日蓮宗身延山久遠寺の参拝にも四十五名という多くの参加者を得て有意義な法話や参拝、親睦を深めたことは有難いことであった。

三、長崎の雲仙岳の被災市民救済も総意によって十万五千円の浄財を神奈川新聞社(七月五日)を通

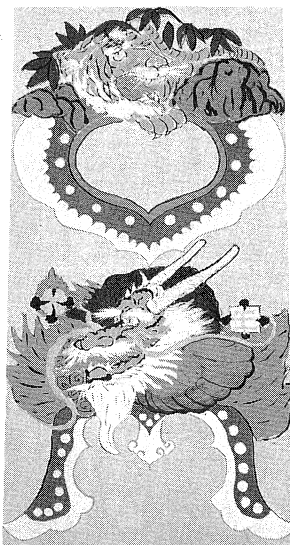


・徳善寺山門の仁王像

してお届けお見舞できたことも布施行の一つとして感謝しております。

四、長天寺の客殿、庫裡も来年の落慶を目前にして寺檀一同協力のもとに工事も着々と進捗しつつありますこと御同慶に堪えません。

五、徳善寺の山門落慶(二年)及び二王様(金剛神双体)入仏、お陰様で去る五月十六日安座開眼供養も無事関係者一同で修行出来得ました。仏祖の加護は元よりですが檀信徒各位の護法護持と先祖への報恩供養の賜ものと感謝して未永いお祈を念ずるものです。



・長天寺僧房上棟式に飾る破魔矢の龍虎図(三田裕道住職画)

## 保土ヶ谷区

保土ヶ谷区仏教会では仏教奉賛会を結成、広く各寺の信徒を集めて活動している。

まず四月八日花まつりを、会長

の自坊東光寺に於て式典ののち、奉賛会総会を開催、事業並に会計報告、本年度の活動方針を発表して、会の発展を願ひ、最後に会長の法話にて会を締めくくった。

次に五月八日に仏跡参拝、バス

四台に会員分乗して(総勢約二百人)この日は阪東観音霊場の栃木県大谷の大谷観音にまず参拝、楽しく昼食をとり、次に岩沢の山満願寺へおもむき本堂に参詣してお寺の代表から縁起を伺って参遊の風景を楽しみながら一時を過し一路帰路につき夕刻全員元気で家路についた。

尚この秋にも再び日帰りの仏跡参拝旅行を計画している。

また十二月には恒例の年末助け合いの托鉢も計画している。十二月と申せば、我々仏教徒として最も大切な行事に「成道会」があることを忘れてはならない。

当区仏教会そして当区仏教奉賛会では各宗とも心を一にして、積尊成道会を供養申し上げて、僧俗一体となって積尊のみ教えに感謝している。

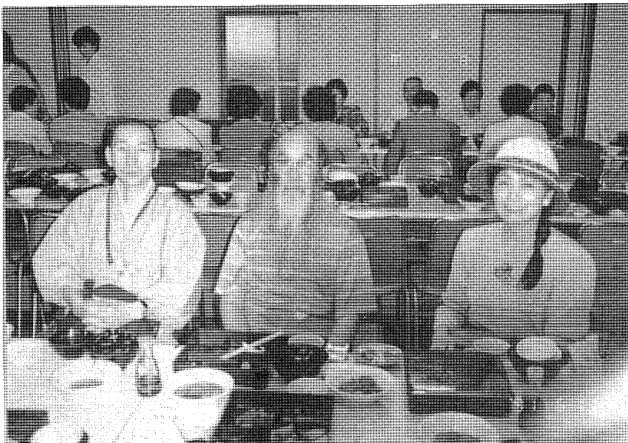
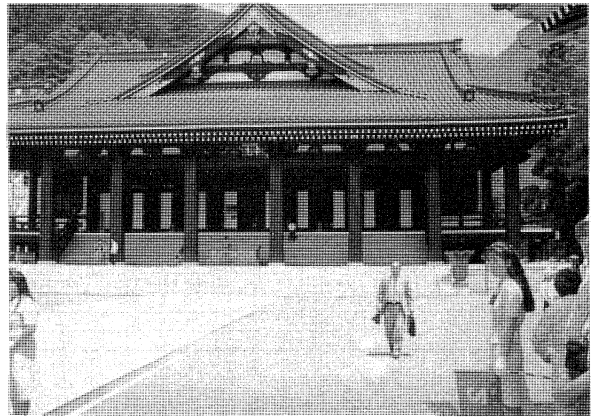
近年は文明こそ進歩してきたが人間の根底にある尊い教えを忘れがちである。毎年十二月八日に法要ならび記念講演を催している。どうぞ区境をのりこえて皆さんご参詣下さいますように。

# 思い出

## 身延山久遠寺を参拝して

春の仏跡参拝旅行

平成3年6月11日

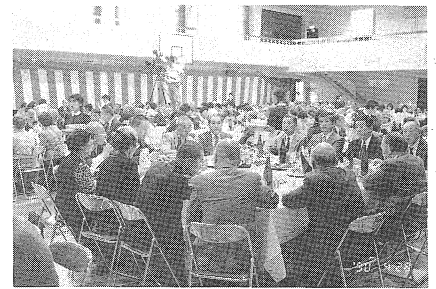
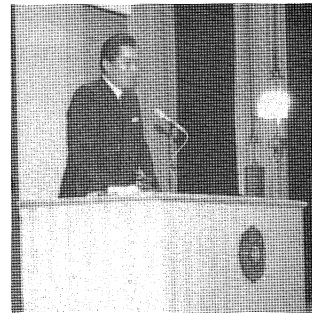


# 周年行事を終えて

事務局長 玄野孝善

横浜市仏教連合会と横浜市釈尊奉讃会が、がっちり手を組んで催した周年記念事業大会。戦時中は気持ははやって物資がない。今は物心両面に渡って恵まれた時、このよき時期にこうした皆様方の努力によって、立派に行事を成功できた喜びは、ただ感謝の一言もございません。

大変遅くなりましたが、本日にここに皆さまがたからよせられた尊い浄財のご報告をさせていただきます。心より厚く御礼申し上げます。次第であります。ここにのこりました浄財は大切に市仏連特別会計といたしまして貯金させていただきました。そして次期大会等の準備金にさせていただきます。思い出したら幸と存じます。思い出として当日の写真をのせました。本当にありがとうございます。



横浜市 仏教連合会再発足40周年 記念事業大会決算書 釈尊奉讃会創立10周年

収入の部		当初予算	決算額	比較増減	備考
会費	2,730,000	2,457,000	△ 273,000		5,000円×426ヶ寺 2,000円×300名
寺院	2,130,000	2,225,000	95,000		
奉賛会	600,000	232,000	△ 368,000		
勸募費	2,000,000	954,250	754,250		
広告料	2,000,000	2,600,000	600,000		
祝儀	300,000	410,000	110,000		
雑収入	0	653,282	653,282		利息 その他
合計	7,030,000	15,662,782	8,632,782		
支出の部		当初予算	決算額	比較増減	備考
会場費	500,000	300,000	200,000		1,000円×1,000部
講師謝礼	800,000	850,000	△ 50,000		
記念誌	1,000,000	1,400,000	△ 400,000		
事務費	1,000,000	456,903	543,097		
記念品	600,000	898,000	△ 298,000		
祝典費	900,000	1,767,037	△ 867,037		
祝宴費	1,000,000	1,305,021	△ 305,021		
渉外費	300,000	1,894,330	△ 1,594,330		
雑費	200,000	839,347	△ 639,347		
予備費	730,000	0	730,000		
合計	7,030,000	9,710,638	△ 2,688,068		
差引残高		5,952,144			

平成3年7月5日  
上記の通り会計の報告をしております  
上記について監査の結果適法かつ正確と認めます  
会計監査 内田 惣次郎  
会計監査 内村 隆平

## 事務日誌



- 2.12 14 理事会 於桂月
- 3.1 8 市仏連発
- 3.1 8 涅槃会案内状発送
- 3.1 8 講師依頼状連発
- 3.1 8 涅槃会随喜依頼連発
- 3.1 15 市仏連発
- 3.1 22 泉区仏会長御見舞
- 3.1 22 呉慰霊堂出仕 南、港南
- 3.2 6 役員選考委員会於常清寺
- 3.2 6 涅槃会最終打合せ
- 3.2 8 三役会 於福聚寺
- 3.2 11 第十六回涅槃会於大誓寺
- 3.2 21 栄区仏
- 3.2 21 市仏連発
- 3.3 27 常任理事会於西有寺
- 3.4 3 西区仏花まつり会長出席
- 3.5 23 理事会於西有寺
- 3.5 23 第十八回総会於西有寺

## 編集後記

事務局長の謝辞を掲載し、総括がようやくにできたかとホッと安堵している。その時のビデオテープを今、試見編集作業の段階であるので年内には配布できる見込である。

・第十六回釈尊涅槃会は栄区仏教関係者、大誓寺住職、寺族や総代世話人様、御詠歌講中の方々の心温かい接待があり、僧侶五〇名に信徒二〇〇名の約二五〇名の参詣者で盛大であった。やるまでは大変だったけれど、当番役を果すことができ、ありがたかったというのが栄区仏の方々の感想である。



・月色横分す窓の一半、秋声まさに樹の中、間に在り。秋季彼岸会や観月会、浄土宗のお十夜、日蓮宗のお会式、浄土真宗の報恩講等伝達の各行事が管まれていく。

・湾岸戦争終結、雲仙普賢岳噴火・連政変等まさに天変地異の現し世に諸行無常、世間苦と説かれた釈尊の言をあらためて思い起す。

・地域仏教活動を地味ながら続けている当会の会長改選があり、森山正城師が二期目を務められ、川上敬吾師も続けて専務理事を担当される。各区仏諸役人名簿が出そろっておりません。まだの区仏は川上専務理事宛提出下さい。

・周年記念大会の決算報告と玄野